

# 平成28年度 施策評価表

課・グループ名	教育委員会 給食センター 給食業務担当
---------	------------------------

作成年月日：平成29年10月13日

施策名	①ーb 農業を活かした学習機会の充実（学校における食育の推進）	3-2-①ーb
-----	---------------------------------	---------

## 1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(2) 農村環境を活かした学校教育の推進	①ーb 農業を活かした学習機会の充実（学校における食育の推進）
①施策のねらいと展開方向	<p>●南幌産の米や野菜等の学校給食への使用拡大を図り、児童生徒が地域の食文化、食に係る産業、自然環境の恩恵に対する理解を深め、学校給食を活用した食育の推進に努めます。</p>		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<p>●小中学校の食に関する指導の全体計画（平成21年度作成）を踏まえ、栄養教諭（平成21年度配置）による食に関する指導の推進を行っています。</p> <p>●学校給食で旬の物や南幌産の食材を積極的に使用することで生きた教材となるよう食に関する指導の推進を行っています。</p> <p>●学校給食について家庭、地域の理解と協力を求めるとともに、家庭における食生活改善への啓発を行っています。</p>	<p>●食育は、学校全体で取り組む必要があるため、各校の食に関する指導の全体計画を踏まえ、学校において食に関する年間指導計画を作成することが求められます。</p> <p>●南幌産野菜等の積極的な活用を図るためには、地元出荷団体及び生産者等の理解・協力が必要となります。</p> <p>●学校における食育指導とともに、家庭における食習慣の重要性の認識が必要です。</p>	

## 2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名		数値化				
	児童生徒に対し、より多くの南幌産農産物等（加工品も含む）を給食を通じて供給することにより、地域の食文化や食に係る産業等に対する理解を深めることにつながるものと考えことから、給食食材として活用する南幌産米の使用割合及び南幌産野菜等の品目数を成果指標として設定。	成果指標（総合計画・施策評価）	○	可能				
	A 南幌産野菜等使用品目数		不可能					
	B 給食米南幌産使用割合		未計測					
	代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定					
			可能					
			不可能					
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由	
		H25	H26	H27	H28	H28		
A 目標	品目	9	10	9	9	9	前年度入手することができたミニトマトが、今年度は入手できなかったため。	
A 実績	品目	10	13	11	10	10		
A 達成率	%	111.1	130.0	122.2	111.1	111.1		
B 目標	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
B 実績	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
B 達成率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
評価視点		評価結果					A	南幌産野菜の使用品目が減少したものの目標を上回るとともに、南幌産米100%の使用を継続することができ目標を達成することができた。今後においても、農協から食材生産状況等について情報収集を行っていくことや食材納入業者に南幌産食材を優先して納入するよう依頼し、できる限り南幌産食材を納入できるようにしていきたい。
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）						
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）						
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）						
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）						

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H28実績	H29予算
					実 績								
1	学校における食育推進事業	(1)	生涯学習課	①地場産物食材使用品目(南幌産) ②給食米飯使用料(南幌産)	① 9	①品目	各学校の食に関する指導の全体計画を踏まえ、栄養教諭等が食に関する指導を行う上で、学校給食で旬の物や南幌町産の食材を積極的に使用し、生きた教材となるよう食に関する指導の推進を図る。また、米どころの町として、食育や地産地消、子育て支援にもつながる米飯給食の回数を増やすとともに給食用米を全額町が負担する。	Ⅱ	Ⅰ	2-1 見直して 継続   拡大	1,191	高い	
					②100	②%					3,091		
2													
3													
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
											H28事業費	1,191	
											H29予 算	3,091	

②H29に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	南幌町食育推進計画で位置づけられている「学校給食での地元産利用」という目標に沿い、南幌産食材を活用することで、児童生徒や保護者に、南幌町で作られている食材を知ってもらうことや生産している農家に感謝の気持ちを持つことなど、食事の大切さを伝えるために必要な事業であることから、今後も継続して実施していきたい。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	<b>事業構成の 妥当性</b>	
	<b>A</b>	

### 4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性	事業番号					平成29年度以降 の予算の方向性		
			A	1						
			B						拡大	
			C						○	維持
			D							縮小
		優先度 A~D (ランク)								